

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 毎年3月31日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル 0120-782-031
 電話照会先
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
 本店および全国各支店で行っております。



ホームページのご案内

50周年記念サイト

創立50周年を記念して、記念サイトを公開しています。社員の抱負の他、精工技研の50年のあゆみをぜひご覧ください。



<https://www.seikoh-giken.co.jp/50thanniversary/>



決算説明会動画

業績ハイライト、今後の取り組みや戦略、業績予想のポイントを中心にご説明していますので、ぜひご覧ください。



<https://www.seikoh-giken.co.jp/irininfo/>



株式会社 精工技研
 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1
<https://www.seikoh-giken.co.jp>

株主通信

2022年3月期(第50期) 事業報告
 2021年4月1日~2022年3月31日

特集

中期経営計画

マスタープラン2022の
基本方針

業績ハイライト

『マスタープラン2016』の最終年度、 様々な施策の遂行に努めた結果、 売上高は創業以来、最高となりました。

代表取締役社長 **上野 昌利**



2022年3月期の業績について

当社グループは、2016年度から取り組んでいる6ヶ年の中期経営計画『マスタープラン2016』の最終年度として、引き続き「既存事業の収益力強化」、「事業ポートフォリオの最適化」、「経営基盤の強化」の各施策の遂行に努めました。

「既存事業の収益力強化」に向けては、各種の成形品や金型、精密金属加工部品等を主力製品とする精機事業、光通信部品とその関連機器、レンズ、光伝送装置や光電界センサ等を主力製品とする光製品事業の両セグメントにおいて、販売力と価格競争力を強化すると共に、当社の技術資源である精密加工・精密成形・光学技術を応用し、市場や顧客のニーズに応える新製品、新技術の開発に取り組みました。

「事業ポートフォリオの最適化」に向けては、「成長期待事業」に位置付けている精密樹脂成形品やレンズを「成長牽引事業」へと進化させるべく、ターゲット市場のマーケティングやパートナー企業との連携強化に努めました。併せて、当社グループの持続的な成長を促す「次世代事業」を創出するため、「成長牽引事業」や「収益基盤事業」で獲得した資金を投資するM&Aや事業提携先の探索も行いました。

「経営基盤の強化」に向けては、WEB会議を積極的に活用して当社

グループ会社間のコミュニケーションを図り、価値観の共有や事業課題の解決に向けて議論を行いました。本社においては、小集団活動を通してボトムアップによる改善活動を継続的に実施したほか、働き方改革「メリハリワーク」を推進し、より短い時間でより多くの収益を上げる強固な組織体質の確立に努めました。

こうした諸施策を実施した結果、当期の売上高は16,188百万円となり、創業以来最高となりました。営業利益は1,524百万円、経常利益は1,641百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,150百万円となりました。

当社グループは2022年6月をもって、創業50周年を迎えました。記念すべき50年の節目を迎えることができましたのも、株主の皆様をはじめ多くのステークホルダーの方々のおかげと心から感謝と御礼を申し上げます。これからもお客様から信頼され、業界の中で存在感のある「世界のお客様にとっての“ベストパートナー”」であり続けるために、さらなる成長と努力を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別の業績について

● 精機事業

樹脂と金属を一体で成形するインサート成形や金属材料のプレス成形等の技術を活用した精密成形品や、成形品を効率的に量産するための高品質な金型、高い寸法精度が要求される金属部品等を顧客に提供しております。当期は、新型コロナウイルス感染症や半導体の供給不足の影響で自動車メーカーが生産台数を抑制する中、各種の圧力センサー用のインサート成形品や、エアコンに組み込まれる電動コンプレッサー用部品等、車載用成形品の売上が増加しました。一方、スマートフォンやモバイル端末のキーボード等に使用される金属プレス成形品は、新型コロナウイルス感染症の影響により、スマートフォンの消費地であるインドや欧州の需要が縮小し、売上が減少することとなりました。開発面では、創業以来培ってきた精密金型技術や射出圧縮成形技術、樹脂成形品にミクロン単位の凹凸を施す微細転写技術等を応用し、自動車や医療、パイオ等の産業領域において、顧客と共に新たな製品の量産化に向けた技術課題の解消に取り組みました。

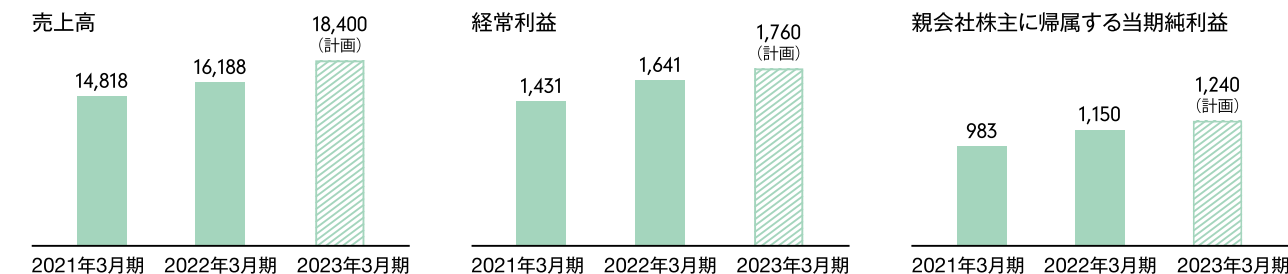
これらの結果、当期の精機関連の売上高は8,478百万円、営業利益は381百万円となりました。

● 光製品事業

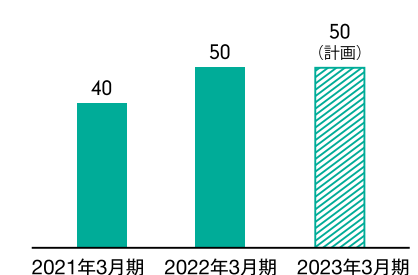
光通信インフラやデータセンターに使用される光コネクタ等の接続部品や、これら光通信部品の製造機器、検査・測定装置、電界の強度分布を正確に測定する光電界センサ、テレビや携帯電話等の電波を安定的に伝送する光伝送装置、センサーや医療用内視鏡等に応用可能な超小型の樹脂レンズ等の製品を顧客に提供しております。現在、5Gの商用化やリモート需要の拡大を背景に、基地局やデータセンターを繋ぐ光通信部品の需要が世界規模で増加しており、世界各国の光通信部品メーカーが生産体制を強化しています。これを受けて当連結会計年度は、光通信部品やその製造機器、検査・測定装置の売上が大きく増加することとなりました。中国大連の子会社は、光コネクタの基幹部品であるフェルールの生産能力を拡大するため、総床面積が現在の1.6倍となる新工場を2021年6月に取得し、立ち上げ準備を行っています。また中国杭州の子会社は、中国国内のケーブルテレビ関連顧客に向けて光接続部品を販売する新会社を2021年10月に設立し、販売力の強化を図りました。

これらの結果、当期の光製品関連の売上高は7,710百万円、営業利益は1,143百万円となりました。

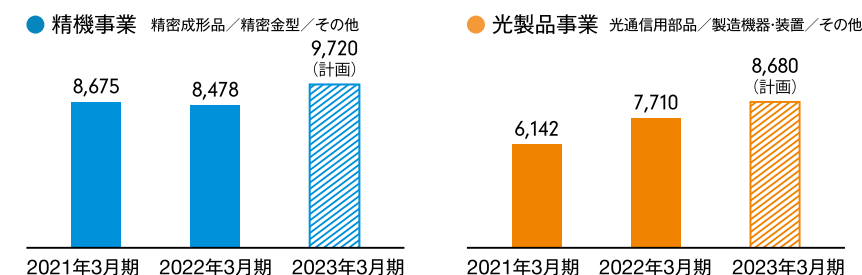
連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



一株当たり配当金 (単位:円)



セグメント別概況 売上高の推移 (単位:百万円)



マスタープラン2022の基本方針

中期経営計画の位置づけ

新しい中期経営計画『マスタープラン2022』は、さらなる50年先も社会の維持継続や進歩発展に貢献し続ける“社会に必要とされる企業グループ”を目指して新たにスタートを切る、最初の5年間（2022年度～2026年度）と位置付けます。



経済価値の最大化のための中期成長戦略

精機事業

部品ビジネスから完成品までを手掛ける高付加価値デバイスビジネスへ

- 販売戦略**
- 車載**
 - EV、PHV、FCV向け新規案件の獲得
 - 電子部品を組み込んだモジュール製品の拡販
 - プレス+インサート成形品の案件開拓、等
 - 医療**
 - 医療・バイオ市場のマーケティング
 - 精密樹脂成形品の新規顧客開拓、等
 - 情報通信**
 - プレス成形品（ドームコンタクト）はウェアラブル端末等の新規用途を開拓
- 開発戦略**
- 環境に配慮した構造の金型の開発
 - 他社/大学/公的研究機関との技術連携強化、等
- 生産戦略**
- 成形～組立～検査工程の自動機内製化加速
 - 調達/外注先の複数化による生産の安定化、等

光製品事業

高機能新製品の市場投入と、工場拡張・自動化による生産力の増強

- 販売戦略**
- 光部品**
 - データセンター関連大手顧客の開拓
 - 中国CATV関連の新規顧客の開拓
 - 欧米エリアへのアプローチ強化
 - 機器**
 - MT対応研磨機や空港マルチラテレーション等の光伝送装置/光電界センサの拡販
 - 海外顧客への技術サポートの強化
 - レンズ**
 - 内視鏡向け超小型レンズの量産加速
 - 3Dセンシング、車載向け等の用途開拓
- 開発戦略**
- 光コネクタ自動研磨装置・検査装置の開発
 - ミリ波帯対応RF光伝送ユニット開発、等
- 生産戦略**
- 中国大連新工場における生産力の増強
 - 第三国への生産拠点開設検討、等

社会価値の最適化のためのサステナビリティ戦略

- 経営基盤の強化**
- 多様な人材が生き生きと働ける環境整備
 - クラウド化、ペーパーレス化、DX対応
 - 脱炭素、資源循環型社会構築への貢献

事業活動（商品・サービス）と企業活動（制度・取り組み）を通して4つのSDGs目標達成に貢献する

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

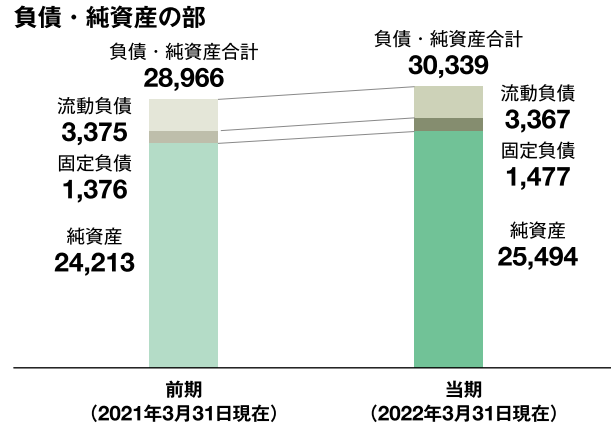
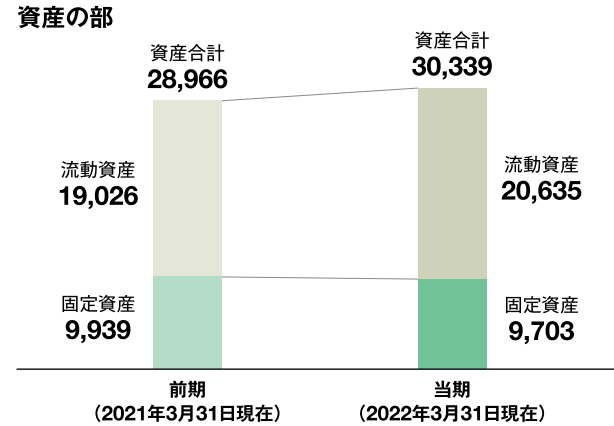
詳しい情報はHPに掲載している『中期経営計画 マスタープラン2022』をご覧ください



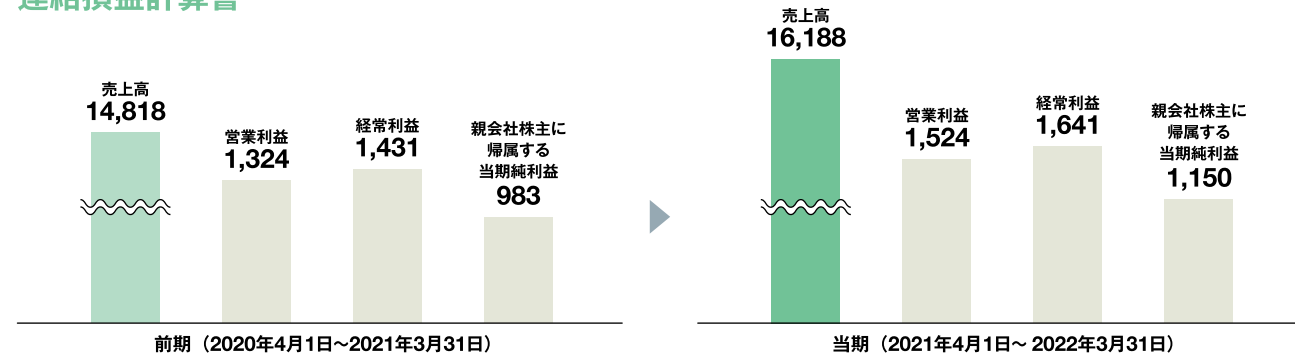
連結財務諸表(要約)

単位：百万円、単位未満切り捨て

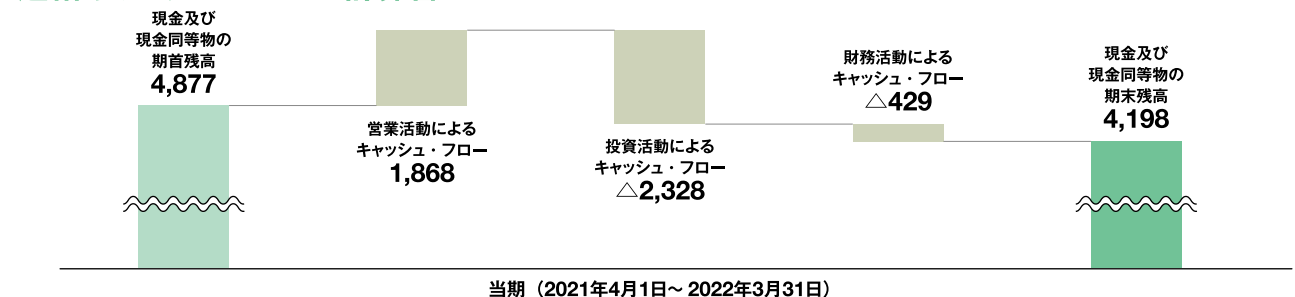
連結貸借対照表



連結損益計算書



連結キャッシュ・フロー計算書



会社情報 / 株式情報

(2022年3月31日現在)

会社概要

会社名 株式会社 精工技研
 本社 千葉県松戸市松飛台296番地の1
 創業 1972年6月
 資本金 6,791,682,700円
 事業内容 **精機事業**

自動車用部品、電子部品等の精密成形品や各種精密金型、精密金属部品等の製造及び販売

光製品事業

光通信用設備に用いる光部品や光部品製造機器、光部品形状測定装置、無給電光伝送装置、光電界センサ、高耐熱レンズ等の製造及び販売

従業員数 941人

グループ会社 **子会社**

SEIKOH GIKEN USA, INC.

杭州精工技研有限公司

SEIKOH GIKEN EUROPE GmbH

大連精工技研有限公司

不二電子工業株式会社

DATA-PIXEL SAS

関連会社

浙江精工光电科技有限公司

杭州技研光电科技有限公司

役員

代表取締役社長	上野 昌利
専務取締役	木村 保
常務取締役	来 関明
常務取締役	上野 淳
取締役(社外取締役)	大久保 勝彦
取締役(社外取締役)	谷田貝 豊彦
取締役(監査等委員)	森 保彦
取締役(監査等委員、社外取締役)	三好 徹
取締役(監査等委員、社外取締役)	相場 俊夫

株式の状況

発行可能株式総数	37,000,000株
発行済株式の総数	9,333,654株
株主数	2,947名

所有者別株式分布状況

